

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-19	中学校	道徳	道徳	3 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
233日科	909	道徳 中学校3 生き方を創造する		

1. 編修の基本方針



◆ 本教科書が育てたいこと

- ① 自分の身の回りに興味・関心を持ち、問題意識を持つことができる
- ② 自分の考えを持ち、積極的に発言することができる
- ③ 他の人の意見をしっかりと受け止め、尊重することができる

中学生は、生徒自身が生きる社会や人間関係が飛躍的に広く複雑になっていきます。そしてそれに伴って、自分は、家族の一員であり、学校の一員であり、地域・社会の一員であることを、強く実感していく時期です。

広い世界は、新たな喜びや楽しみを運んで来る一方、今まで信じてきた「道徳的諸価値」が、激しくぶつかり合うことも経験するようになります。「友情」と「社会正義」、「自由」と「公共の精神」など、これまでどちらも正しいと捉えてきた価値が対立する現実です。そこで子供たちは、何を信じたらいいか分からず、どちらかを選ぶこともできず、情緒的に不安的になる場合があります。

このような状況において、学校の「道徳」が担う役割とは何でしょうか。

私達は、徹底的に「道徳的書価値」に向き合わせることでと考えました。表面的な見方に留まらず、より深い理解に到達することができる時間にするという事です。



「道徳的諸価値」と真剣に向き合うことが、価値観の多様性をしっかりと受け入れる寛容さを育みます。その目指すところは、生徒一人ひとりが、国境や文化を超えた「普遍的な心」を持つことです。それはすなわち、相手の立場を尊重し、心から思いやる心です。

この心によって、地域社会や国、そして世界に主体的に関わる意識を生み、これからの未来を見据えて行動することに繋がっていくと考えています。

本教科書は、教育基本法に示された教育の目標を達成し、上記の「普遍的な心」を育むために答えが1つではない道徳的課題を、一人ひとりの生徒が、自分自身の問題と捉え向き合い、「考えること」ができ、そして他の人と「議論すること」ができる教材を揃え、さらに生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。

2. 対照表

図書の構成・内容	該当箇所	特に意を用いた点や特色
◆目次	表②-1	本書は、学習指導要領の内容項目順に教材を配置してあります。「A 自分自身と向き合う」「B 他の人とのかかわり」「C 集団や社会とのかかわり」「D 自然や崇高なものとのかかわり」の4章立ては、それぞれ学習指導要領のABCDに対応しています。これは、教科書の順番に縛られることなく、各地域、各学校の特色や方針によって、自由に各教材を活かしてほしいという意図があります。(第1号)

◆巻頭詩「どこにもない木」	pp. 2-3	中学校3年間で学ぶことの集大成としての人の姿を、1編の詩に託して、生徒に伝えています。(第1号)
◆道徳科って何を学ぶの ◆心の成長を目指して	pp. 4-6	「道徳科って何を学ぶの」は、学習指導要領の内容と「考え、議論する道徳」を確認する内容になっています。そして「心の成長を目指して」では、「道徳科」を、学校教育、地域・社会、家庭のなかで位置づけ、生徒により広い視野から「道徳科」を捉えるように促しています。(第1号)
A 自分自身と向き合う	pp. 7-44	学習指導要領「A主として自分自身に関する事」の5項目に該当する教材を掲載しました。生徒の日常生活に関する「スイッチ」、ips細胞の山中伸弥教授や無農薬りんご栽培の木村秋則さん、先人としての島津斉彬とバランスよく配置しました。(第2号) 「MOTTAINAI」と続くコラム「3R」も含めて環境の保全に寄与する態度を養う教材です。(第4号)
B 他の人とのかかわり	pp. 45-78	学習指導要領「B主として人との関わりに関する事」の5項目に該当する教材を掲載しました。特にいじめの問題を重視したいという思いから、「友情、信頼」の教材を、他より多く3編載せています。(第3号)。
C 集団や社会とのかかわり	pp. 79-148	学習指導要領「C主として集団や社会との関わりに関する事」の7項目に該当する教材を掲載しました。 「ニュースで討論」は、「障害者差別」という問題から「正義」や、あるべき社会のあり方などを考え、議論できるように工夫しました。(第3号) 「惣菜屋のおばちゃん和我」では、何を目的として働くべきかということについて、日常的な風景から深く考え、話し合える内容になっています。(第2号) 「不揃いでなくちゃあかんのや」「小泉八雲が見た出雲の国」、そしてコラム「伊勢神宮」では、日本が長年培ってきた伝統と文化を尊重し、愛する態度を養うことができます。合わせて「ぼくの留学体験」や「海と空」では、他国を尊重することや、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができます。(第5号)
D 自然や崇高なものとのかかわり	pp. 149-187	学習指導要領「D主として生命や自然、崇高なものとお関わりに関する事」の4項目に該当する教材を掲載しました。(第4号) 「臓器移植をめぐる生命と心」では、具体的な臓器提供や脳死といった側面から「生命」について考えられるようになっています。(第4号) 「峠」では、東山魁夷の流麗な文章において、日本の美しい自然への感心や愛情を育むと同時に、環境保全に寄与する態度も育まれる内容になっています。(第4号)(第5号)
巻末詩「あしたへ」	pp. 188	3年生のみ、すべての教材の後に1編の詩を掲載しました。これまで育んできたことを大切にして、これからの新たな旅立ちを祝福する内容になっています。(第1号)
◆振り返りましょう ◆私の道徳記録	pp. 190-191	「道徳科」で、3年間自分が育んできたものを、あらためて客観的に確認し、これからの人生に向けての思いを確認できるワークシートを用意しました。(第1号)

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条との対応

- ◆B-6「明日への光」という、東日本大震災での体験記を掲載しました。あの震災は、あらためて家族とは何か、友だちとは何か、社会とは何か、国とは何か、国際社会とは何かを、私たち一人ひとりに突きつけました。あまりにつらい体験ではありますが、あらためて振り返ることで、社会において自立的に生きる基礎、そして国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質について考えるこ

とができます。(第2号)。

学校教育法第21条との対応

- ◆A-2〈考えてみよう〉【世界を知ろう】は、写真のみで構成されているコラムです。地球の温暖化や飢餓、難民など、世界で起こっていることに意識を向け、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第3号)。
- ◆道徳教材としては定番である C-14「一冊のノート」を、本書でも取り上げました。少子高齢化が急速に進んでいる我が国において、家族と家庭の役割について基礎的な理解や愛情を養うために、やはり適切な教材です。(第4号)

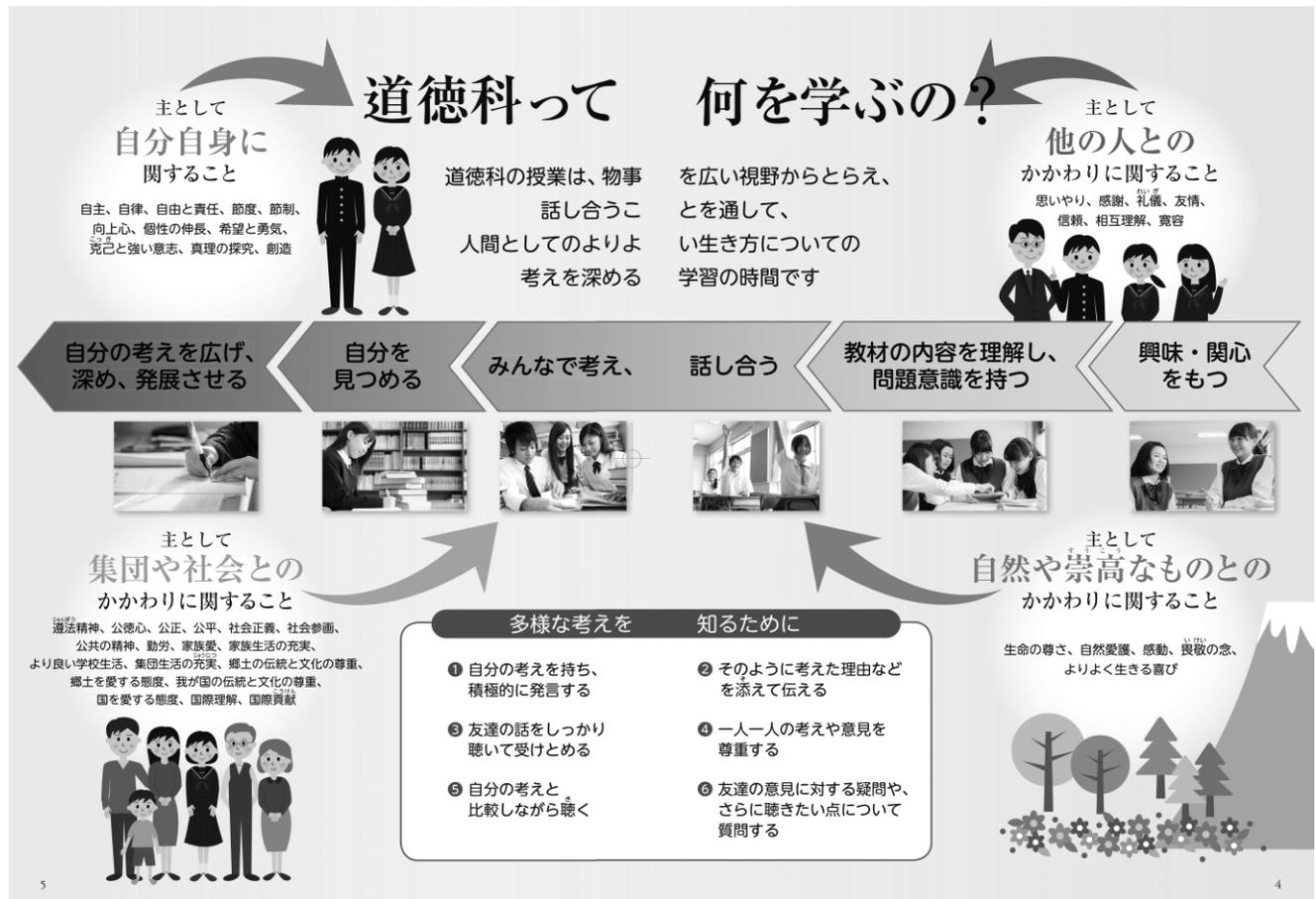
編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-19	中学校	道 徳	道 徳	3 年
※ 発行者の番号・略称	※ 教科書の記号・番号	※ 教 科 書 名		
233 日科	909	道 徳 中 学 校 3 生 き 方 を 創 造 す る		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本書は教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の基本方針で編集しました。



出会い、
ふれあい、
みがき合う
道徳科教科書

(1) 道徳的諸価値の理解を基に生み出される価値観の多様性

(2) 道徳性育成に向かう「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現

(3) 道徳教育の系統性と体系化（カリキュラム・マネジメント）を支える教材

(1) 道徳的諸価値の理解を基に生み出される価値観の多様性

人間尊重の精神を基盤とし、様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、人間としての生き方についての見方・考え方を広げ、深めます。

①生徒が、身近な事例から道徳的諸価値について考える

本書は、生徒一人ひとりが、国境や文化を超えた普遍的な心を持つことを目指しています。それはすなわち、相手の立場を尊重しながら、心から思いやる心と言えます。

その心を持つためには、「道徳的価値」と向きあい理解することが重要です。「友情」と「社会正義」、「自由」と「公共の精神」など、場合によって私たちは複数の道徳的価値からどの価値を優先するかを決めなければなりません。そうした時に必要なのが、それぞれの価値のしっかりとした理解です。そこで中学生の発達の段階を考慮して、生徒の日常生活における身近な話題の教材を多く盛り込みました。(A-1「スイッチ」、B-8「一通のメッセージから始まる物語」「リョウとマキ～Stand by Me～」C-12「ライフ・ロール」など) これらの教材のなかでは、登場人物が道徳的問題について心の葛藤や揺れに直面します。登場人物の悩みや葛藤を共有し、その道徳的問題や判断の結果を自分自身のことと捉え、考え、話し合うことで、道徳的諸価値への理解を深めることができます。

②先人から、自己の生き方を見つめ直す教材

本書で特に目指していることは、価値観の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育むことです。そのためには、物事の多面的・多角的な見方・考え方を身に付けられるようにすることが大切です。①で取り上げた教材は、身近な事例において、家族や友達、学校や社会といった様々な視点から考えを深めることができるように工夫しています。そして身近な事例だけではなく、先人の気高い生き方から、生きる勇気や知恵などを感じることができる教材も多く掲載しています。

A-5「サムライ、西洋技術に挑む」では島津斉彬、C-10「苦悩の決断」では杉原千畝、C-16「なせば成る」では上杉鷹山、またコラムでは西田幾多郎を取り上げ、真実や真理を求め続ける姿勢や、その背景にあった人間としての弱さを吐露する姿などを知ることで、生きることの魅力や意味の深さについて考えられるようになっていきます。加えて、iPS細胞の山中伸弥教授や無農薬りんご栽培の木村秋則さん、また日本画家の東山魁夷さんの文章も掲載しています。

③日本の伝統と文化、そして他国を尊重する心を育む

C-17「不揃いでなくちゃあかんのや」では、宮大工の小川三夫さんを取り上げ、千年以上の年月をかけてはぐくまれてきた日本の優れた伝統と文化について理解を深めることができます。また C-17「小泉八雲が見た出雲の世界」では、小泉八雲という外の視点から、私たち日本人にとっては当たり前すぎて、通り過ぎてしまうような日本の伝統と文化を思い返すことができます。また、当時、外国人でありながら、日本の風土と文化を愛し、日本人の人々を尊重し、優れた功績を残した小泉八雲の先駆的な生き方から、グローバル社会でのあるべき姿や精神を知り、考えることができます。

(2) 道徳性育成に向かう「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現

「考え、議論する道徳」の授業過程が構築され、道徳性を支える資質・能力を育成します。

①「考え、議論する」道徳授業ができる教材

中学3年生になると、高校生活も見据えて、生徒自身が生きる社会や人間関係が、飛躍的に広く、複雑になっていくことから心理面での成長の一方、情緒的に不安定になる場合もあります。また人間関係の広がりや深さから、日常生活においては、「道徳的諸価値」がぶつかり合うことを多く経験していくこととなります。そのためにも本書は、答えが1つではない道徳的な課題を、一人ひとりの生徒が自分自身の問題と捉え、「考えることができる」「議論すること」ように工夫しています。

◆B-9「席を譲ってはいけないのですか」

新聞の投稿欄形式の教材です。席を譲ろうとしたおじいさんに怒鳴られたという中学生の投書に対する様々な意見に対して、自分だったらどう考えるかを議論することができます。

◆B-7「礼儀はなぜ必要なのか」

具体的な3つの場面について、「最も礼儀正しい振る舞い」と「最も無礼な振る舞い」を考え、話し合う教材です。中学3年生という発達段階を考慮し、単にこの場面はこのようにすればいいということではなく、そもそも「礼儀」とは何かを深く考えられる内容になっています。

◆C-11「ニュースで討論『支え合いは当たり前』」

新聞の社説を題材に、いかにして障害者とともに生きていくかを、考え、議論するものです。ゆうた、しおり、けん、と、さくらという中学生の意見が提示されているので、自分はどの子の意見に共感するか、もしくは反発するかをとおして、意見を深めることができるようになっています。

②社会参画への意欲や態度を育む教材

選挙権年齢が18歳に引き下げられ、高校での「主権者教育」も多く行われるようになってきました。そうした中、中学生の段階で、社会的な視点を持ち、社会の一員としての生き方を考えることは重要になっています。そうした社会参画への意欲や態度を養うために、C-12「ライフ・ロール」では、母親の家庭と社会のそれぞれの姿を対比させ、親を通して社会を見ることで、社会の一員であることの意義を考えられる内容になっています。また『「他人ゴト」から『自分ゴト』に』というコラム(p.99)も設け、中学生が参加する海外の「模擬投票」の事例を紹介し、3年後への問いかけをしています。

(3) 道徳教育の系統性と体系化(カリキュラム・マネジメント)を支える教材

各学年の発達の段階を踏まえた系統性と、各教科、他領域の学習内容との関連を考慮し道徳教育の体系化を実現させます。

① 発達段階を踏まえた学年間につながる教材

中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時期です。その発達の段階を考慮しつつ、学年間の繋がりも重視した教材を採用しています。価値の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育む項目は、1年の「二つの足跡」から、2年の「あなたが見えているもの」、3年の「あなたは どう思う」と、すべてワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるようにしています。また次の教材のようにストーリーに連続性をもたせているものもあります。

◆B-8「リョウとマキ Stand by Me～」

1年「First Love～」、2年の「Triangle Zone」と主人公の成長とともに続いてきたストーリーの完結編です。リョウとマキと一緒に歳を重ねてきた生徒が、リョウが直面している悩みを共有し、道徳的問題として考えてほしい教材です。

② 他教科との繋がりを考慮した教材の充実

◆C-12「ライフロール」

1年生のA-3「パーソナリティ」は、自己を見つめ、自己の個性、能力、適性等について主人公を通して考えさせたい教材です。1年生の自己理解から、2年生、A-3「ワンステップ」では、自己啓発をテーマに、そして3年生のこのC-12「ライフロール」で自己実現に向けて想定される葛藤を通し道徳的問題に向き合わせます。これらは、道徳的価値の理解を基盤に、キャリア教育の視点からキャリア発達の段階の連続性と系統性を意図した教材になっています。

◆C-12「プラットフォームでのできごと」、C-13「惣菜屋のおばちゃんと私」

中学生になると、地域の行事や社会福祉施設などでボランティア活動に参加したりすることを通して、よりよい社会を協力して築こうとする意欲が強まってきます。中学2年生で、社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や「公共の精神」などを学習し、3年生ではより具体的な知識を持って、社会の一員であることの意味や働くことの意義を、道徳的観点からもしっかりと考える必要があります。それに対応するための教材を用意しました。

◆D-19「ひさの星」「臓器移植をめぐる生命と心」「いのちの絆」

「人間尊重の精神」やいじめを許さない心の根底には、生命の尊ぶ態度が不可欠です。理科や保健体育、技術・家庭などの他教科等での学習も踏まえつつ、本書では、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、具体的な臓器移植の問題なども含めて、生命尊重への学びをより深めることができる教材を用意しました。

2. 対照表			
図書の内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時間
A 自分自身と向き合う			
スイッチ 富士山を誇る	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	p.8-17	2
MOTTAINAI	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	p.18-22	1
ジャマナカメ	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	p.23-27	1
栄冠は君に輝く 奇跡のりんご	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	p.28-39	2
サムライ、西洋技術に挑む	(5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	p.40-44	1
B 主として人との関わりに関する事			
帰郷 明日への光	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	p.46-55	2
礼儀はなぜ必要なのか	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	p.56-57	1
一通のメッセージから始まる物語 嵐の後に リョウとマキ～Stand by Me～	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	p.58-73	3
席を譲ってはいけませんか	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	p.74-78	1
C 集団や社会とのかかわり			
誓い 苦悩の決断	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	p.80-87	2
ニュースで討論「支え合いは当たり前」 語り伝えるもの	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	p.88-95	2
プラットホームのできごと ライフ・ロール	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	p.96-99	2
惣菜屋のおばあちゃんと私	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	p.105-109	1
一冊のノート 迷わず選ぶ	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	p.110-120	2
明かりの下の燭台	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	p.121-125	1
なせば成る	(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	p.126-129	1
不揃いでなくちゃあかんのや 小泉八雲が見た出雲の国	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	p.130-137	2
ぼくの留学体験記 海と空	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	p.138-148	2
D 自然や崇高なものとのかかわり			
ひさの星 臓器移植をめぐる命と心 いのちの絆	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	p.150-163	2
峠	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	p.164-167	1
不思議な光景	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	p.168-173	1
いつかは言いたい二度目のごめん 二人の弟子 天地と共に	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	p.174-187	2

※基本的に1教材を1授業で配当しているが、内容項目で3教材あるところは、各学校の道徳指導方針に沿って、適宜選択すること。

計35